

投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

部課室名	農林水産部 農林水産局 漁 港 課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	漁港課長 澄田 泰造 (課長補佐兼計画係長 森 正夫)		内線	4172 (4179)
事業種目	漁港漁村	事業採択年度	H6		現計画	再評価時点
事業名	広域漁港整備事業	着工年度	H6	総事業費	50億円	59億円
		再評価年度	H12	内用地補償費	-億円	-億円
事業区間	家島漁港	完成予定年度	H19		H17	
所在地	兵庫県飾磨郡家島町宮	進捗率 (内用補進捗率)	91%(-%)		48%(-%)	
		残事業費	4億円			
事業の目的				事業内容		
当漁港は、小型底びき網、のり養殖を基幹とした栽培・増養殖機能付加漁港であり、坊勢漁港とともに播磨灘海域の生産基地として大きな役割を担っている。本事業により、防波堤及び不足している係留施設並びに用地等の基本施設の整備を行い、安全な漁業活動と蓄養可能な水域の確保及び就労環境の向上と水産物生産コストの低減を図る。				防波堤 L=595m 護岸 L=30m 物揚場（係留施設） L=180m 施設用地 A=3,000㎡ 〔負担割合 国:55～80%、県:19.5～41%、町:0.5～4%〕		
事業を取り巻く社会情勢等の変化	沖防波堤計画については、新規防波堤設置の一部の取りやめと、これに伴う既存防波堤の撤去を取りやめたため、事業費は減額した。しかし、施設配置等に関する地元要望の調整に時間を要したことから事業が長期化している。					
進捗状況	平成17年度までに係留施設及び施設用地は完成し、防波堤も595mのうち505m(85%)が概成し、90mを残すのみとなっている。 これまでに優先整備した漁港の事業が完了することから、今後は当漁港に対し重点的な予算配分を行って残事業を計画的に実施し、平成19年度には事業を完成させる予定である。					
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	当漁港は、播磨灘海域の生産基地として活発な漁業活動が展開されているが、係留施設、施設用地が不足しているとともに、静穏な水域が少ないことから蓄養設備の確保が出来ないなど、漁業活動に支障をきたしている。このため、防波堤及び不足している係留施設並びに用地等の整備を行い、就労環境の向上と水産物生産コストの低減を図る必要があることから引き続き事業を継続する必要がある。					
(2)有効性 効率性	防波堤の整備を行うことにより、港内の静穏度が改善され係留機能が向上する。また、清水防波堤を海水交換型構造とし、沖防波堤の一部を浮体式防波堤とすることで、良好な水質で静穏な水域の確保が可能になる。このことにより漁港内での蓄養水域が拡大し、出荷調整による魚価の安定化が可能となることから漁家経営の向上が期待できる。本事業のB/Cは1.36である。					
(3)環境 適合性	清水防波堤は海水交換機能を付加していること、また、沖防波堤は一部を浮体式防波堤としていることから、閉鎖性水域となる港内の水質の浄化を図ることとしている。					
(4)優先性	現在、荒天時には接岸や陸揚げをはじめとする係留施設での作業の安全性・効率性が悪いことから防波堤の早期整備が望まれている。一方、静穏な蓄養水域と漁港施設用地を活用することにより、漁家経営の安定と漁業活動の快適性を向上させるためにも、防波堤整備を早期に完了させる必要がある。					
再評価結果	継続	左の理由	事業の必要性は、事業採択当時と変わっておらず、漁業活動の安全性と効率化を図るため、継続して事業を実施する必要がある。			